



昨年末に行われた道の駅「螢街道西ノ市」のイベント

## 螢籠プロジェクトチーム

いよいよ螢の季節。暗闇に浮かび上がる無数の光。螢の幻想的な光は見る人の心を癒します。

「螢」を地域のシンボルとしている豊田町は新たな試みを始めます。今回は豊田のホタル祭り50周年に向けて発足した螢籠プロジェクトチームの紹介です。

### 螢籠って何？

螢籠とは麦わらを編み込んで籠を作り、螢を入れて観賞用に使用していた虫籠です。昔は各地で見ることができたのですが、現在はその作り手もなく見かけることが少なくなりました。

### 50周年の豊田のホタル祭り

50周年記念に何かできないかと地域住民の中で話し合いました。地域のシンボルの螢をもっと知ってもらい、「螢籠」を復活させて町おこしに活用しようと若者有志でプロジェクトチームを立ち上げました。地元の高齢者から螢籠の作り方を習い、「螢籠講習会」を開催。約60人の参加者が作り方を習得しました。参加者には「螢籠指導者養成講習修了証」が与えられ、螢籠作り



### 螢籠を作ってみよう！

文化の継承と地域のつながりも、このプロジェクトの重要な要素です。

月に2回程度、豊田総合支所交流スペースに集まり螢籠を作ります。プロジェクトチームの中心メンバーは約20人ですが本業もあるので、毎回の全員参加は困難です。

そんな時でも「ちょっと手伝ってみようかな」「作業をするのが好きだから」と地元住民が家族連れで続々と集まってきました。

夕方から始めるため、作業は2時間程度。来た人から早速作業に取り掛かります。

材料は麦わらのみ。この麦わらも地域の人の協力で、無償でもらったものです。螢籠作りには予算があるわけではなく、地域の人の協力と情熱だけで成り立っています。

まずは、編み込みやすいように麦わらの長さを整え、柔らかくするために水分を含ませます。仕上がりの大きさを決めたら編み込み開始。順番に編み込むだけです。コツをつかむまでが大変です。

初めて参加の人は、螢籠指導者から手ほどきを受けながら少しずつ仕上げます。慣れた人は1時間

で1つ完成させていました。

和やかな雰囲気の中で歓談しながら螢籠を作ります。出来上がりは大きなものから小さなものまで、サイズも形もさまざま。ひとつ一つに作った人の個性がでます。

プロジェクトリーダーの増田さんは「螢籠は豊田地域の新しいシンボルとなり得る素材です。地域コミュニティの場を提供し、地域振興を図る品物であると考えています。今後、地域全体での取り組みを進め、世代や男女間の垣根の無い一体感ができることを願います。地域の人が集まる笑いの絶えない場作りを目指します!!と目標を語ってくれました。

### 光の共演

実際は螢籠に螢を入れません。LEDライトなどで光の演出を施します。昨年末にはPRも兼ねて道の駅「螢街道西ノ市」で光のイベントを開催しました。訪れた人到大変好評で次のイベントに期待が寄せられます。

地域の皆さんが作った螢籠は、5月27日、6月3日に開催される「第50回豊田のホタル祭り」(※詳細は10頁を参照)で披露されます。螢とともに幻想的なオブジェは50回の記念にふさわしく、祭りを一層盛り上げることでしよう。

豊田総合支所地域政策課

(☎766-1056)

### 螢籠作りの様子

